

令和 6 年度

運営に関する計画



大阪市立神路小学校

令和 6 年 1 0 月

大阪市立神路小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「強く 正しく 朗らかに」を校訓に、「豊かな心を持ち、自ら学び、考えたくましく生きる子どもを育てる」を教育目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいる。

【安全・安心な教育の推進】では、児童の安心・安全の実現のため、教職員が共通理解のもとで児童の指導にあたるとともに、家庭、関係諸機関とも連携して、子どもたちの安心・安全な教育の推進に取り組んでいる。

児童用学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目についての肯定的な回答の割合は、学年間で多少に差異はあるものの、概ね目標値には達しているが、学習規律を含めた規範意識については、まだ向上の余地があるため、さらなる取組の推進をおこなっていく。不登校児童の在籍比率および前年度不登校児童の改善の割合については、学校全体での取組および外部機関との連携を進めており、いずれも前年度と同程度であった。また、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合については、「思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて、目標値に達しており、さらなる意識の向上に取り組む必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】では、本市の学力向上支援事業を活用し、教職員の授業力向上のために、研修・研究授業を活性化し、取組を進めている。

令和4年度大阪市小学校学力経年調査の結果では、全市目標における意識調査の項目においては、各学年で差異はあるものの、概ね目標に達するか、それに近い数値となっており、とくに運動やスポーツに対する意識は高い。一方、国語および算数の平均正答率の対大阪市比をいずれの学年も前年度より2ポイント向上させるには至っておらず、さらなる学力向上の取組が必要な状況となっている。ICTの活用については、積極的にその活用が進められており、学習者用端末の月間活用率は、いずれの月においても100%に達している。また、食に関する指導や健康に関する指導については、保護者用校内アンケートで肯定的な回答が高い割合を示しており、充実した取組が実施されている。

【学びを支える教育環境の充実】では、前項にあるように児童の学習用端末の積極的な活用が進められており、また、デジタル教科書の積極的に活用するとともに、学習教材の活用を進めている。また、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合については目標値に達したが、教員の勤務時間に関する基準1および基準2を見満たす教職員の割合は、12月末現在において、基準1については75%、基準2については93%となっており、取組は進んでいるがまだ改善の余地がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を85%以上にする。（令和5年度 82.9%）
- 保護者用学校アンケートで「学校は、子どもの健康・安全に対する取り組みを進めている」の項目の肯定的な回答の割合を毎年向上させていく。（令和5年度 82%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における府平均との標準化得点を、100とする。
- 児童用校内アンケートの「授業の内容はよくわかりましたか」に対して肯定的な回答の割合を毎年向上させ、令和7年度には92%以上にする。（令和5年度 89%）
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点が大阪市の平均と同程度にする。
- 児童用校内アンケートにおいて、「自分からすすんで運動をしていますか」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にする。（令和5年度 70.7%）

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した学習を週3回以上実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を見満たす教員の割合を100%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
(令和 5 年度「思う」72.1% 「思う」「そう思う」計 95.6%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。(令和 5 年度 82.9%)
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。(令和 5 年度 74.3%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。(令和 5 年度 38.2%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。(令和 5 年度 70.7%)
- ・食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にする。
(令和 5 年度 84.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- ・デジタル教材を活用した学習を週 1 回以上実施する。
- ・学習支援ツールを用いた学習を週 1 回以上実施する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（基準 2）を見満たす教員の割合を 100%にする。(基準 1 75% 基準 2 93%)
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。
- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。
(令和 5 年度 90%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
(「思う」 70.9%)
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(4 人→4 人)
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(4 人→2 人)
- ・ 児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。(80.7%)
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。(74.0%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。(29.5%)
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を下回らないようにする。
(6 年国語、5 年 6 年算数で下回った)
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。(67.5%)
- ・ 食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にする。
(87.0%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
(47.8%)
- ・ デジタル教材を活用した学習を週 1 回以上実施する。(概ね達成)
- ・ 学習支援ツールを用いた学習を週 1 回以上実施する。(概ね達成)
- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（基準 2）を見満たす教員の割合を 100%にする。(基準 1 90% 基準 2 100%)
- ・ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。(65.0%)
- ・ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。(91%)

大阪市立神路小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）（様式2）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 (R5 72.1% R6 70.9%) ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (R5 4人 R6 4人) ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R5 4人 R6 2人) ・ 児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 (R5 82.9% R6 80.7%) ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 (R5 71.0% R6 74.0%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【1 安心・安全な教育環境の実現】 ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ----- 指標 ・ いじめのアンケート調査を定期的（毎学期）に行う。 ・ 月1回生活指導部会を開くとともに、職員会議時のなどをもとに随時情報を共有する。児童の問題行動について指導の共有化を図る。	B
取組内容② 【1 安心・安全な教育環境の実現】 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ----- 指標 ・ スクリーニングシートを定期的に（学期に一回）作成し、不登校児童の実態を調査する。 ・ 区役所の子育て支援やスクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)と連携しながら問題事象の解決を図る。 ----- 	B

取組内容③【1 安心・安全な教育環境の実現】	B
・児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。	
指標	B
・「学校生活のきまり」や「学校安心ルール」をもとに全教育活動を通して、規範意識の向上を図る。 ・月目標を設定し、年間を通して継続して指導に取り組む。	
取組内容④【2 豊かな心の育成】	B
・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。	
指標	
・学級での終わりの会等で「いいところみつけ」を取り組み、自己肯定感の向上を図る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 毎学期のいじめアンケートや月 1 回の生活指導部会において児童の実態の確認と情報の共有を行うことができた。実態に応じて問題解決に努めることができた。経年調査の結果「思う」と回答したのは 70.9%だが肯定的な回答を総合すると 91.8%であった。	
② スクリーニングシートを作成して子育て支援担当や SSW、SC と連携しながら問題の解決を図っている。不登校児童に対しても本人への負担を考慮しながら保護者とも連携して登校を促している。	
③今年度は 80.7%が肯定的な回答を行っていた。月目標を設定し指導しているが高学年になるほど肯定的な回答が少なくなっている。	
④学級でいいところみつけを日々取り組み、お互いの肯定感の意識向上に努めることができた。	
次年度への改善点	
① 本来であれば 100%であるべき内容なので一人でも意識向上につながるように継続して取り組む。	
② 今年度不登校の傾向が改善している児童もいるので、継続して取り組む。	
③目標数値を見直すとともに、朝会や朝の会で学校のきまりについて指導を行い再認識できるように努める。	
④一学期から取り組めていない学級もあったので来年度は計画しておく。また、いいところみつけで毎日もしくは毎週特定の児童を決めて必ず全員が認められる機会を設ける。	

大阪市立神路小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。 (R5 38.2% R6 29.5%) ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を下回らないようにする。 (6 年国語、5 年 6 年算数で下回った) ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。 (R5 70.7% R6 67.5%) ・ 食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 (R5 84.6% R6 87.0%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員全員が公開授業を実施する。 ・ 児童アンケートにおいて「授業の内容はよくわかりましたか」に対して肯定的な回答の割合を 85%以上にする。 	B
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を下回らないようにする。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年に応じて自主学習ノートの内容を紹介するとともに、児童アンケート「内容を工夫して自主学習ノートに取り組んでいる」の肯定的な回答を 80%以上にする。 	C

<p>・自主学習ノートにおいて、年間を通じて、3 行日記や俳句など、「書くこと」の学習に取り組む。 (R5 55.0% R6 60.1%)</p>	
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】</p> <p>・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70% 以上にする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・体育器具・用具を整備・活用し、児童が運動に親しむ機会を増やす。</p> <p>・校内児童アンケート「自分からすすんで運動をしていますか」の項目で、肯定的な回答の割合について 80%以上をめざす。 (R5 79.1% R6 77.9%)</p>	B
<p>取組内容④【5 健やかな体の育成】</p> <p>・食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にする。</p> <p>・アレルギー対応について、必要に応じて研修会の開催や日々の連絡により、安全を徹底する。</p> <p>・養護教諭・栄養教諭と連携し、健康に関する指導をすすめる。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① コロナが落ち着いてから話し合う活動を取り入れてきたが、指標を上回ることができなかった。近所・グループ・全体での話し合い活動をより多く取り入れていきたい。 (「授業の内容はよくわかりましたか。」の肯定的な回答 89%) 年間計画にしたがい、全教員が公開授業を行い、授業力の向上に努めることができた。</p> <p>② 自主学習ノートは、全学年が共通して取り組むことができた。しかし、「工夫して取り組んでいる」の肯定的な回答は 60%と指標に届かず、学年によるばらつきも大きい。</p> <p>③ 「自ら進んで運動していますか」への肯定的な回答は 78%で昨年とほぼ同じ水準であった。体育器具・用具は整備され、使いやすくなっている。</p> <p>④ 栄養教諭、養護教諭を中心に実践的なアレルギー対応の研修が年度の早い時期に行われ、全教職員が共通して対応できるようになった。 食に関する指導が計画的に実施され、食（特に給食）に対する児童の関心を高めることができている。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 「授業の内容はよくわかりましたか」に対する否定的な回答した約 10%の児童への手立てをどうするか。</p>	

- ② 自主学習ノートを宿題にしていることで、取り組みに個人差が見られた。工夫して楽しんで取り組んでいる児童もいるので、どのように興味を持たせ、持続させるのかを検証する必要がある。
- ③ 外遊びにおいて児童のいろいろな興味を刺激するために、貸出ボールの種類や数、なわとび台の設置なども検討してはどうか。
- ④ 来年度以降も指導を継続する。

(様式 2)

大阪市立神路小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 (R6 月平均 47.8%) ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (基準 2) を見満たす教員の割合を 100% にする。 (基準 1 : 90% 基準 2 : 100%) ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。 (R6 91%) ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72% 以上にする。 (R5 71.3% R6 65.0%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 <hr/> 指標 ・デジタル教材や学習支援ツールを活用した学習を週 3 回以上実施する。 ・心の天気を日々入力するようにする。	B
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (基準 2) を見満たす教員の割合を 100% にする。(基準 1 75% 基準 2 93%) ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。 <hr/> 指標 ・ゆとりの日を週に 1 回は実施し、その取り組みができているかを検証する。	A
取組内容③【8 生涯学習の支援】 ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72% 以上にする。 <hr/> 指標 ・読書に興味を持ってもらうために、月 1 回の読み聞かせやブックトークなどを	C

<p>行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書タイム時（週１回）に新しい本を紹介したり、児童が読んでいる本を紹介したりするなど、読書に対する意識を持たせるようにする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①学習者端末使用率（2/17 現在 47.8％）１年生は日々の心の天気入力に時間的に難しい。しかし、全体的に心の天気入力する機会が増えている。また、デジタル教材をほぼ毎日活用している学年もあれば、逆に使用率が低い学年もある。</p> <p>② ゆとりの日は毎週設定されており、適切に取り組んでいる。</p> <p>③読書タイムを中心に読書の時間を確保した。図書の時間などで読み聞かせを毎週行っている学年もある。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①児童端末の故障が多いので、年度初めにも、また扱いが悪くなってきた時をチャンスに、いねいに扱う指導が必要。毎日のルーティーンを作るなどして心の天気入力を年度当初に形作るようにしていくことが必要。</p> <p>また、それぞれの学年で、デジタル教材や支援ツールをどんな時に活用しているのか共有し、ベースを作ることで使用率を上げていくことも考えていく。</p> <p>例 １年算数（教科書の QR コードを活用してお金の出し方を学習。 音楽 （QR コードを使って家で歌の練習）</p> <p>②ゆとりの日の設定は継続して行い、できるだけ定時で退勤できるようにしていく。しかし、校務分掌など仕事量の違いが大きく、偏りがある。仕事量の平滑化を図り、みんなが平等な仕事量になるようにする必要がある。</p> <p>③児童アンケート「毎月１回以上は読書をしている」の項目においては、75.7％の児童が肯定意見だった。読書への意欲を高めるために、新刊を購入して興味を持てるようにしたり、教科書に載っている本の平行読書を促したり、読み聞かせを行ったりして本に触れ合う体験をどんどん増やしていく必要がある。また、図書委員会からの読み聞かせを企画することもよいのではという意見もあった。読書タイムや図書の時間に、先生も一緒になって本を読んでいる姿を見せることも必要なのではないか。いろいろな方法があるので、１年間通して指導することで児童の意欲を引き出していきたい。</p>	

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立神路小学校 学校協議会

1 総括についての評価

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
(「思う」70.9%) →目標を達成できなかった。→評価は妥当である。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(4人→4人) →目標を達成できなかった。→評価は妥当である。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(4人→2人) →目標を達成できた。→評価は妥当である。
- ・ 児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を85%以上にする。(80.7%)
→目標を達成できなかった。→評価は妥当である。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(74.0%)
→目標を達成できた。→評価は妥当である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。(29.5%)
→目標を達成できなかった。→評価は妥当である。
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を下回らないようにする。
(6年国語、5年6年算数で下回った)
→目標を達成できなかった。→評価は妥当である。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。(67.5%)
→目標を達成できなかった。→評価は妥当である。
- ・ 食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を80%以上にする。
(87.0%) →目標を達成できた。→評価は妥当である。

- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（基準 2）を見満たす教員の割合を 100%にする。（基準 1 90% 基準 2 100%）
→目標を達成できた。→評価は妥当である。
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。（65.0%）→目標を達成できなかった。
- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。（91%）
→目標を達成できた。→評価は妥当である。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。（「思う」70.9%） ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（4人→4人） ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。（4人→2人） ・児童用校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。（80.7%） ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。（74.0%）
<p>①毎学期のいじめアンケートや月 1 回の生活指導部会において児童の実態の確認と情報の共有を行うことができた。実態に応じて問題解決に努めることができた。経年調査の結果「思う」と回答したのは 70.9%だが肯定的な回答を総合すると 91.8%であった。 →評価は妥当である。</p> <p>②スクリーニングシートを作成して子育て支援担当や SSW、SC と連携しながら問題の解決を図っている。不登校児童に対しても本人への負担を考慮しながら保護者とも連携して登校を促している。→評価は妥当である。</p> <p>③今年度は 80.7%が肯定的な回答を行っていた。月目標を設定し指導しているが高学年になるほど肯定的な回答が少なくなっている。→評価は妥当である。</p> <p>④学級でいいところみつけを日々取り組み、お互いの肯定感の意識向上に努めることができた。→評価は妥当である。</p>

<p>次年度への改善点</p>
<p>①本来であれば 100%であるべき内容なので一人でも意識向上につながるように継続して取り組む。→改善点は妥当である。</p> <p>②今年度不登校の傾向が改善している児童もいるので、継続して取り組む。 →改善点は妥当である。</p> <p>③目標設数値を見直すとともに、朝会や朝の会で学校のきまりについて指導を行い再認識できるように努める。→改善点は妥当である。</p> <p>④一学期から取り組めていない学級もあったので来年度は計画しておく。また、いいところみつけで毎日もしくは毎週特定の児童を決めて必ず全員が認められる機会を設ける。 →改善点は妥当である。</p>
<p>年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。 (R5 38.2% R6 29.5%) ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を下回らないようにする。 (6年国語、5年6年算数で下回った) ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。 (R5 70.7% R6 67.5%) ・食に関する指導の全体計画に基づき食育を推進し、学校アンケートの「食に関する指導の充実」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にし、校内児童アンケート「給食をおいしく、残さず食べている」に対して肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 (R5 84.6% R6 87.0%)
<p>①コロナが落ち着いてから話し合う活動を取り入れてきたが、指標を上回ることができなかった。近所・グループ・全体での話し合い活動をより多く取り入れていきたい。 (「授業の内容はよくわかりましたか。」の肯定的な回答89%) 年間計画にしたがい、全教員が公開授業を行い、授業力の向上に努めることができた。 →評価は妥当である。</p> <p>②自主学习ノートは、全学年が共通して取り組むことができた。しかし、「工夫して取り組んでいる」の肯定的な回答は60%と指標に届かず、学年によるばらつきも大きい。 →評価は妥当である。</p> <p>③「自ら進んで運動していますか」への肯定的な回答は78%で昨年とほぼ同じ水準であった。体育器具・用具は整備され、使いやすくなっている。→評価は妥当である。</p> <p>④栄養教諭、養護教諭を中心に実践的なアレルギー対応の研修が年度の早い時期に行われ、全教職員が共通して対応できるようになった。食に関する指導が計画的に実施され、食（特に給食）に対する児童の関心を高めることができています。→評価は妥当である。</p>

次年度への改善点
<p>①「授業の内容はよくわかりましたか」に対する否定的な回答した約10%の児童への手立てをどうするか。→改善点は妥当である。</p> <p>②自主学習ノートを宿題にしていることで、取り組みに個人差が見られた。工夫して楽しんで取り組んでいる児童もいるので、どのように興味を持たせ、持続させるのかを検証する必要がある。→改善点は妥当である。</p> <p>③外遊びにおいて児童のいろいろな興味を刺激するために、貸出ボールの種類や数、なわとび台の設置なども検討してはどうか。→改善点は妥当である。</p> <p>④来年度以降も指導を継続する。→妥当である。</p>
年度目標：【学びを支える教育環境の充実】
<p>①学習者端末使用率(2/17 現在 47.8%)1年生は日々の心の天気入力は時間的に難しい。しかし、全体的に心の天気入力する機会が増えている。また、デジタル教材をほぼ毎日活用している学年もあれば、逆に使用率が低い学年もある。→評価は妥当である。</p> <p>②ゆとりの日は毎週設定されており、適切に取り組んでいる。→評価は妥当である。</p> <p>③読書タイムを中心に読書の時間を確保した。図書の時間などで読み聞かせを毎週行っている学年もある。→評価は妥当である。</p>
次年度への改善点
<p>①児童端末の故障が多いので、年度初めにも、また扱いが悪くなってきた時をチャンスにしていねいに扱う指導が必要。毎日のルーティーンを作るなどして心の天気入力を年度当初に形作るようにしていくことが必要。</p> <p>また、それぞれの学年で、デジタル教材や支援ツールをどんな時に活用しているのか共有し、ベースを作ることで使用率を上げていくことも考えていく。</p> <p>例 1年算数（教科書のQRコードを活用してお金の出し方を学習。 音楽（QRコードを使って家で歌の練習） →改善点は妥当である。</p> <p>②ゆとりの日の設定は継続して行い、できるだけ定時で退勤できるようにしていく。しかし、校務分掌など仕事量の違いが大きく、偏りがある。仕事量の平滑化を図り、みんなが平等な仕事量になるようにする必要がある。→改善点は妥当である。</p> <p>③児童アンケート「毎月1回以上は読書をしている」の項目においては、75.7%の児童が肯定意見だった。読書への意欲を高めるために、新刊を購入して興味を持てるようにしたり、教科書に載っている本の平行読書を促したり、読み聞かせを行ったりして本に触れ合う体験をどんどん増やしていく必要がある。また、図書委員会からの読み聞かせを企画することもよいのではという意見もあった。読書タイムや図書の時間に、先生も一緒になって本を読んでいる姿を見せることも必要なのではないか。いろいろな方法があるので、1年間通して指導することで児童の意欲を引き出していきたい。→改善点は妥当である。</p>

3 今後の学校園の運営についての意見

○いじめに関する質問における「どんな理由があってもいけない」との項目について、いじめは良くないと認識しながらも、受けた側にも何らかの理由があるのではという意識が払拭しきれていない。引き続き指導が必要である。

○不登校の原因は学校・家庭どちらにあるのかについて、個別の事情なので一人ひとり原因が異なる。

○地域のスポーツクラブに入っている児童は男女とも全国平均を上回っている。運動時間も上回っており、更に意欲的に運動に関われるよう、取り組みを工夫したい。

○家庭でできる運動の手引きを配信し、協力を得たい。

○経年調査について、昨年度までの結果を踏まえた取組や成長の過程が見られるよう、資料の分析および提示をしてもらえた。

○特に算数については課題が残っているので、引き続き子どもが理解できるよう取り組みの改善に努めていただきたい。